

— 北緯 39 度東経 141 度の地点から —

メロポール

花巻高村光太郎記念館通信 第1号 平成28年7月9日(土)



光太郎先生に届きますように

—第59回 高村祭—

平成28年5月15日(日)さわやかな新緑が映える五月晴れの下、第59回高村祭を開催しました。高村山荘詩碑前広場には、県内外から600名の参加がありました。

太田小学校児童による献花、三彩流新茗会新田社中による献茶が行われました。

次に、参加者全員で碑詩「雪白く積みり」を朗読しました。

児童生徒、学生の演奏、朗読や合唱などの発表には、光太郎先生のことばの持つ力に、心が洗われる思いでした。

今年の特別講演は、光太郎先生のことこの孫にあたる加藤千晴さん(盛岡市在住)。演題は「高村光太郎と金谷一族について」でした。



昼食時には、光太郎先生も好きだったという神楽、歌、皆での手踊り、思い出の語りなど賑やかに時間が流れました。

参加者は自然の風の中、交流の輪を広げ、それぞれ光太郎先生への思いを語り、豊かな一日を過ごしたと思います。

高村祭は、どなたでも参加できます。地元虹の会のお母さん方の手作りだんごや、

銀の鳩さんのパンやコーヒーなどおいしいものもたくさんありました。来年もまた皆様においでいただけることを楽しみに、お待ちしております。



光太郎先生と子どもたち

— 寄贈楽器ではじまった演奏 —

高村祭は、昭和33年5月15日(木)に第1回を開催しました。山荘套屋の落成、詩碑の除幕祝典を行った時のことです。その第1回より引き続き、地元太田小学校(当時は山口小学校)児童が楽器演奏で参加しています。

昭和28年11月、光太郎先生が一年ぶりに山口へもどられた時、寄附して下さったお金で大太鼓、小太鼓、シンバル、トライアングルなどの楽器を揃えることができました。

演奏する姿を光太郎先生に見ていただくことは叶いませんでしたが、子どもたちは、お礼のお手紙を書いて、練習の様子などをお知らせし、お返事もいただいたといいます。



小学生のときから、高村光太郎さんの詩に触れながら過ごしてきましたが、高村祭に参加して、改めて素晴らしい作品がたくさんあることがわかりました。ぼくたちの発表では一人一人大きな声で言うことができ、全員で合わせるところでは皆で息を合わせてうまく発表できたと思います。

高村祭を見ていた方々に、詩のすばらしさが伝わっていらしいなと思いました。

天気にも恵まれ、気持ちの良い青空の下で高村祭に参加することができ、良かったです。
(西南中1年男子)



— 歌い継がれる「心はいつでも…」 —

また、西南中学校(当時の太田中学校)には、生活信条『心はいつでもあたらしく毎日何かしらを発見する』を、揮毫して贈りました。

今回も1年生の皆さんは、生活信条を基に制作された精神歌の合唱と、構成詩の朗読を発表しました。

「陽の中に薫る風あり～高村祭～」は学級通信の見出しですが、担任の先生の感性が光ります。「あ～～、やっぱり山荘の空気はおいしいな～」。詩碑に向かって木立の中を歩きながら、思わず声を上げた男子がいたとか。生徒たちの達成感を受け止めた上で、『光太郎先生の作品や人生に触れ、とてもいい学びの時間となりました。』とつづられています。

1年B組学級通信より、生徒の感想作文の一部を、紹介させていただきます。

構成詩の練習のときは、下を向いてしまっていたけど、前を向いて、天国にいる光太郎先生の耳にも届くように口を大きく開けて言えました。

精神歌では、元気いっぱいの歌声が高村山荘に響きわたりました。

そして光太郎先生のすばらしさを改めて実感することができました。これからもずっと皆の心の中で、光太郎先生は生き続けていくと思います。
(西南中1年女子)

【編集後記】 高村祭が、たくさんの方々の参加により開催できるのは、光太郎先生の作品や思いが若い世代にも受け入れられ、引き継がれているからにほかなりません。うれしい限りです。ご協力どうもありがとうございます。